

都中道研

第一二三号



会長 菅野

由紀子

(武蔵野市立第二中学校長)

このたび、東京都中学校道德教育研究会 会長を拝命しました。新型コロナウイルスが猛威を振るう中で重責を担い、身が引き締まる思いです。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様もご承知のとおり、感染拡大防止のため五月に予定していた定期総会・研修会が開催できないという異例の事態となりました。関係部局と相談のうえ、総会はWEB採決とさせていただきます。東京都の先生方が感染症対策に日々取り組み、今もなお油断できない状況の中で、生徒の笑顔と元気あふれる教育活動の実現にご尽力されていることに敬意を表すとともに、先行き不透明で不安な今の状況が、少しでも早く見通しのもてる安全で安心な生活に代わることを祈るばかりです。

さて、予測困難な状況であればあるほど、生徒一人一人が他者とともに課題や困難の解決策を考え、よりよい選択をよりよい生き方につないでいくための学習活動が求められるのではないのでしょうか。特に中学生には、学校生活の中で何が正しく何が誤りであるかを自ら判断して、望ましい行動がとれるようになることや自律的な生き方を積み上げることが道徳性を養い、生きる自信を育てることが必要です。つまり、生徒自身が、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深めることの原点が道徳科であり、道徳科の授業の中で今を見つめ、困難を認めつつ、それを乗り越えてよりよく生きようとするこのよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢こそ今まさに求められているのです。

昨年度、本会はテーマを「これからの道徳科の授業」として、江東区

立大島西中学校において研究発表大会を開催しました。教材の特質を分析した上で、授業のねらいに応じて問題解決的な学習や体験的な学習を適切に選択できるようにすることに着目しながら、授業者の斬新な指導計画を支援し道徳教育の創造的な発展を促すことに取り組みました。今年度は、昨年度を踏まえた上で、「社会情勢の急激な変化において、共によりよく生きる力を育む道徳教育」とし、教師も生徒も一緒になって理想的な人間のあり方を追求しながら、われわれはいかに生きるべきかを、共に考え、共に語り合う道徳科の指導の工夫に取り組みたいと考えています。

未知のウイルスとの闘いは長期にわたることが予想され、今後も学校現場では多くの解決すべき課題があります。しかし、東京都中学校道德教育研究会では、こうしたときだからこそ、道徳教育、とりわけ道徳科の指導を通してよりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、この難局を皆で乗り越えていきたいと思っています。感染防止のため厳しい運営の中での研究会活動とはなりません。が、ぜひ、一緒に、歩みを進めてまいりましょう。

事務局より

事務局長 木村 知広

(板橋区立赤塚第三中学校長)

◎令和二年度活動予定

今年度の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、感染症対策を講じた上で実施可能と判断できる活動のみ実施し、リスクが高い事業については、今年度中止とします。

○定期総会・研修会【中止】

令和二年五月十五日(金)

○第二回部員総会・研修会【中止】

令和二年八月二十四日(月)

◇第五十四回全日本中学校道德教育研究会高知大会【中止】

◇第四十九回関東甲信越中学校道德教育研究大会千葉大会【中止】

○第三回部員総会・研修会

令和三年一月十四日(木)

会場(中野サンプラザ 研修室)

※授業づくりのワークショップ

として研修会を実施予定

○第五十一回研究発表大会

令和三年二月十六日(火)

会場(中野サンプラザ 研修室)

講師

文部科学省初等中等教育局

教育課程科 教科調査官

飯塚 秀彦 先生

研究部より

研究部長 麻生 隆久

(多摩市立聖ヶ丘中学校長)

本年度、研究部長を務めさせていただきます多摩市立聖ヶ丘中学校長の麻生隆久です。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、本年度の研究主題は、「社会情勢の急激な変化において、共によりよく生きる力を育む道德教育」、副題を「新型コロナウイルス感染症の拡大に対応する道德科の指導の工夫」といたしました。

昨年度は、中学校も「特別の教科 道德」(以下、道德科)が全面实施となり、本研究会でも、「教材の特質に応じた多様な指導」をテーマに、道德科における問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた授業づくりについて研究し、その成果として二月の都中道研究発表大会で複数の授業を公開しました。令和二年度も、その成果を踏まえた活動を行う予定でした。

しかしながら、昨年の冬に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校も長期休業を余儀なくされ、急激な社会の変化により、生徒たちもこれまでとは全く

違う状況を経験することになりました。その結果、生活面はもとより、学習面、部活動、友達関係、家族関係など、ストレスの原因となる要素がいくつも重なり、生徒の内面に寄り添う指導や心のサポートが不可欠となりました。こうした状況においては、一人一人がよりよく生きるための基盤となる道德性を育むことを目指した道德教育の重要性は例年以上に高まっていると考えられます。

図らずも、平成二十九年度の研究テーマが、「共によりよく生きる道德教育」であり、その主題設定の中で、『共によりよく生きる力』は、道德の時間の設置の時代から求められている。『教師も生徒も一緒に becoming 理想的な人間のあり方を追求しながら、われわれはいかに生きるべきかを、共に考え、共に語り合い、』育まれる力である。その力の育成こそ、現状の道德の時間の改善の上で、最も注視しなければならぬこと」と捉え『よりよく生きる』とは人間本来がもつ願いであり、この願いの実現を目指して生きようとするところに道德が成り立つ。』と述べています。

今まさに、このような視点に立ち返り、人や経済が生き延びることに追われ、心身共に疲弊している中で、共に支え合い、人としてよりよく生きるとはどういうことかを道德科を通じて考えることが重要であると考え、上記のテーマを設定しました。

これまで研究部では、毎月の活動を通じて、全日本中学校道德教育研究大会及び、関東甲信越中学校道德教育研究大会の発表に向け、今日的な課題に対応した先進的な研究を推進すること、ワークショップ形式で教材や指導方法についての研鑽を深め、二月の研究発表会で公開授業で成果を発表すること、さらに、道德科の取組実態と課題等を整理することを目的にアンケート調査も実施し、道德教育の充実に取り組んできました。

しかしながら、今年度は、昨年度までのような活動が難しいこともあり、限られた時間の中で、今、子どもたちが抱えている課題を正面から受け止め、より実践的な研究や情報交換をグループに分かれて行うことといたします。その成果につぎましては、調査活動の結果と共に二月の研究発表会並びに都中道研のホームページ、研究紀要等で発表する予定です。何卒、御理解・御協力くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理、ご協力いただきありがとうございます。

この度、広報第一二三号をお届けいたします。今後も、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

広報部

部長 生野 まゆみ

(調布市立第四中学校長)

副部長 佐藤 正敏

(足立区立第十四中学校副校長)

都中道研のホームページ

<http://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004>